

令和8年度事業計画

I. 学会の方針

公益社団法人である学会は冷凍空調および食品冷凍の唯一の学術団体として冷凍空調および食品冷凍技術の発展に貢献し、社会的信頼を得るべく公益目的事業を行う。定款の目的事業は、(1)技術普及および技術者育成などの教育事業、(2)国際冷凍学会などとの連携・協力による国際交流事業、(3)調査・資料収集および技術開発・研究開発などの調査研究事業、(4)資格認定および表彰による学術評価事業、(5)その他前記の目的を達成するために必要な事業、である。これらの目的事業を達成するため、より堅固な運営基盤の構築、若い人材の育成および充実、産学官の連携強化、国際交流事業の活発化、さらに学会員メリットの向上に取り組み、将来を見据えた学会のあり方と事業戦略の再構築に取り組んでいく。

II. 事業計画

1. 技術普及および技術者育成などの教育事業

本事業を実施するために、次の委員会活動等を行う。

(1) 学術講演会運営委員会

日本冷凍空調学会年次大会、空気調和・冷凍連合講演会および本学会が共催する学術講演会等についてその全般を審議する。

・第1回 2026年度年次大会(担当:大阪公立大学)の準備状況確認、2027年度年次大会(担当:産業技術総合研究所)の準備状況確認、第59回空気調和・冷凍連合講演会の実施報告確認:令和8年7月頃

・第2回 2026年度年次大会の実施報告確認、2027年度年次大会の準備状況確認、2028年度年次大会の実実施計画確認:令和8年11月頃

・第3回 2027年度年次大会の準備状況確認、2028年度年次大会の実実施計画確認:令和9年3月頃

1) 日本冷凍空調学会年次大会

・年次大会の予算および決算の監査と理事会への上程。

・実行委員会または準備委員会が立案する講演論文募集要項(各種日程、会場等)の調整と理事会への上程。

・実行委員会または準備委員会が企画する特別講演、オーガナイズドセッション、ワークショップ、見学会などへの助言。

・実行委員会が行う応募論文の選定、プログラム編成および司会者の選任に対する助言。

・講演論文集執筆要綱(和文、英文)の作成。

・日本冷凍空調学会賞優秀講演賞の審査および学会賞選考委員会への推薦。

・優秀講演賞に関する事項の検討・調整。

2) 空気調和・冷凍連合講演会

空気調和・冷凍連合講演会運営委員会への本学会代表委員の派遣、運営の支援を行う。

3) その他本学会が共催する学術講演会等について、派遣委員等の選考あるいは年次大会や空気調和・冷凍連合講演会に準じた事項の審議を必要に応じて行い、共催講演会等の円滑な計画実行を支援する。

(2) 2026年度日本冷凍空調学会年次大会実行委員会

2026年度の年次大会を企画・運営する。

開催予定日:9月1~4日

会場:大阪公立大学森之宮キャンパス

・実行委員会 物品手配の確認、会場レイアウト作成、見学先決定、企画案作成、懇親会準備など:令和8年4月頃

・実行委員会 プログラム・タイムテーブル・配布物の作成、アルバイトの手配、企業展示関連準備など:令和8年7月頃

・年次大会 令和8年9月

・実行委員会 報告書作成、収支決算の確認、引き継ぎ資料作成:令和8年10月頃

(3) 2027年度日本冷凍空調学会年次大会準備委員会

2027年度開催の年次大会(担当:産業技術総合研究所)の開催準備を行う。必要に応じて随時委員会を開催し、年次大会における企画等を決定する。

・講演募集要項(各種日程、会場等)の決定。

・特別講演、オーガナイズドセッション、ワークショップ、見学会等の企画。

(4) 学会独自の国際会議実行委員会

プロフェッショナルシンポジウム実行委員会を発展的に継承した、学会独自の国際会議実行委員会を立ち上げ、国際会議の企画を行い、開催実現を目指す。

(5) 事業委員会

本学会全体の事業実施について調整すべき内容や課題について取りまとめを行う。また、各地区事業の状況と課題を取り纏め、その対応を検討するとともに各地区事業委員会の連携を図る。

- ・第一種冷凍機械講習 検定試験 冷凍機械責任者試験に係る法定講習会の検定試験(高压ガス保安協会からの委託業務):令和8年5月
- ・第二種冷凍機械講習 検定試験 (1回目) 冷凍機械責任者試験に係る法定講習会の検定試験(高压ガス保安協会からの委託業務):令和8年7月
- ・第二種冷凍機械講習 検定試験 (2回目) 冷凍機械責任者試験に係る法定講習会の検定試験(高压ガス保安協会からの委託業務):令和9年3月
- ・冷凍空調入門講習会(対面&WEB) 冷凍空調業界の仕事に初めて就く方々向けの易しい内容の講習会:令和8年5月
- ・冷凍空調入門講習会(再配信) 冷凍空調業界の仕事に初めて就く方々向けの易しい内容の講習会:令和9年3月
- ・冷凍空調初級ガイダンス講習会(対面&WEB) 冷凍空調業界の仕事始めて1~2年目の初級者向けの基礎講習会:令和8年8月
- ・冷凍空調初級ガイダンス講習会(再配信) 冷凍空調業界の仕事始めて1~2年目の初級者向けの基礎講習会:令和9年3月
- ・初級冷凍空調講習会(冷凍コース)「初級標準テキスト 冷凍空調技術」をテキストとした、冷凍空調業界2~3年目の方および中堅技術者向けの基礎講習会:令和8年10月
- ・初級冷凍空調講習会(空調コース)「初級標準テキスト 冷凍空調技術」をテキストとした、冷凍空調業界2~3年目の方および中堅技術者向けの基礎講習会:令和8年10月
- ・冷凍機械責任者試験対策講習 「上級冷凍受験テキスト」をテキストとした、国家試験対策講習会(二冷受験者向けおよび一冷受験者向けをそれぞれ一回開催予定):令和8年9~11月
- ・冷凍空調技士受験準備講習会(WEB)「上級標準テキスト 冷凍空調技術」をテキストとした、冷凍空調技士試験 受験者向けの受験準備講習会:令和9年2月
- ・サイエンス講座 冷凍サイクル主要要素機器技術を扱った上級者向け講習会:令和8年12~令和9年3月
- ・地域事業委員会課題ヒヤリング実施等 事業委員会への出席・意見交換(随時)

(6) 各地区(北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 西日本)事業推進委員会

1) 北海道地区事業推進委員会

- ・地方工業会等との連携による地域の特性, ニーズにマッチした支部活動の企画, 地域の自主性向上と効率化, 活性化による学会の知名度アップと活性化:年4回 (令和8年5月, 8月, 10月, 令和9年2月)
- ・新企画事業の推進(大学研究者・学生と企業技術者等の交流を図る新企画) 学术界と企業との交流活性により, 技術, 人材でメリット創成(随時)
- ・冷凍空調関連設備見学会 最新空調設備の見学を通して実応用への理解を深める:年1回 (令和8年10月)
- ・セミナー 業界の最新技術動向把握等, 情報共有機会, 場の提供:令和9年2月
- ・学会をアピールする新たな分野, 業種の開拓:セミナー等への会員外参加者の分析, 学会メリットのアピールポイント整理(通年)

2) 東北地区事業推進委員会

- ・事業推進委員会 活動計画等の確認・協議 対面開催2回程度, WEB開催1回程度の開催:令和8年6月, 11月, 令和9年3月
- ・施設見学会 高効率の冷凍・空調設備等を採用した施設見学を通して, 実応用への反映に向けて設備導入の考え方や省エネ・脱炭素化の取組み等の理解深掘を図るもの:① 令和8年4~6月 ② 令和8年8~10月 ③ 令和8年11~令和9年2月 年3回程度開催
- ・空調調和・衛生工学会東北支部との連携 イベントの共催およびイベントの効率的な開催に向けた情報交換(通年)
- ・学会PR活動 施設見学会の非会員参加者に対する学会主催イベント等の案内, および学会入会の案内(通年)

3) 関東地区事業推進委員会

- ・【技術セミナー】 空調・冷凍に係わる最新技術およびその将来性を取り上げる:
セミナー① 実務或いはAI 関連セミナー 令和8年6~9月頃
セミナー② 最新の冷媒動向に関するセミナー 令和8年10~令和9年1月頃
セミナー③ ヒートポンプ技術の最新動向に関するセミナー 令和8年11~令和9年2月頃
- ・【見学会】 空調・エネルギー設備など最新機器及び最新システムのサイト見学:
見学会① 企画 令和8年4~9月, 見学会② 企画 令和8年10~令和9年2月

4) 中部地区事業推進委員会

- ・初級講習会 冷凍コース(対面) 新入社員や若手技術者の基礎技術力向上のための基礎講座:令和8年6月
- ・初級講習会 空調コース(対面) 新入社員や若手技術者の基礎技術力向上のための基礎講座:令和8年6月
- ・中部地区見学会(対面) 中部地区における省エネ, 環境に配慮した最新施設の見学会:令和8年10月
- ・第19回中部地区技術交流会(対面) 企業, 大学との最新の研究開発課題に関する技術交流:令和8年11月
- ・ヒートポンプセミナー(対面) ヒートポンプを応用した最新技術に関するセミナーの開催:令和9年2月

5) 近畿地区事業推進委員会

- ・見学会 ① 空調・冷凍に関わる最新設備等の見学会:令和8年6月開催予定
- ・見学会 ② 空調・冷凍に関わる最新設備等の見学会:令和8年10月開催予定
- ・見学会 ③ 空調・冷凍に関わる最新設備等の見学会:令和9年2月開催予定
- ・最新技術セミナー 先端技術等で主に「省エネ」をテーマとした技術セミナーを開催:4月開催予定
- ・冷凍空調実用講座(冷凍) 2日間で開催, 中堅技術者の育成のため独自の講師テキストで設計事例をもとに冷凍技術 Q&A, 要素技術, 応用技術の習得を図る:令和8年9月開催予定
- ・冷凍空調実用講座(空調) 2日間で開催, 中堅技術者の育成のため空気線図の応用, 実際の設計事例での恒温恒湿設備の設計, 産業空調の問題点等の習得を図る:令和8年9月開催予定
- ・実用講座(ガスセミナー) 最新のガス空調機に関するセミナーを開催:令和9年3月開催予定
- ・シンポジウム 過去二十数年間毎年開催している近畿の顔としてより充実を図る, 全員参加の恒例パネルディスカッションで盛り上がりを図る:令和8年11月開催予定
- ・さろんセミナー 最新技術, 他分野等の話題性のある内容で開催:年1回程度開催(令和8年4月開催予定)
- ・事業推進委員会開催 毎月開催. 各委員の意見交換企画立案, 検討:毎月開催11回/年
- ・委員会夏季研修セミナー 平成22年度より開催している研修を兼ねた委員持ち寄りのセミナー:令和8年8月開催予定

6) 西日本地区事業推進委員会

- ・西日本地区事業推進委員会 (WEB 開催3回, 現地開催4回) 地区事業の計画立案・検討・実施および将来計画等について審議. :令和8年4, 6, 8, 10, 12月, 令和9年2, 3月開催
- ・見学会① 西日本地区における最新施設・設備の見学:令和8年5月
- ・さろんセミナー 事業推進委員およびその関連の大学, 企業関係者による最新の技術情報公開セミナー:令和8年8月
- ・技術交流会 最新の研究開発課題に関する産業界と大学等研究機関との技術交流および意見交換:令和8年9月
- ・見学会または技術セミナー(中国・四国地区) 中国・四国地区における最新施設・設備の見学, あるいは最新技術動向に関するセミナー:令和8年11月
- ・見学会② 西日本地区における最新施設・設備の見学:令和8年11月
- ・技術セミナー 最新技術動向に関するセミナー:令和9年2月

(7) 食品冷凍事業委員会

講習会, セミナーを企画して開催する. また, 一般社団法人食品冷凍技術推進機構(FF-Tech)と教育事業の連携を行い本学会の食品分野の活性化を図る.

- ・食品冷凍事業委員会 WEB 開催含む年3回の委員会開催.
- ・食品冷凍技士試験準備講習会 オンデマンド配信とする:令和9年1月~2月
講義内容を見直し, 食品冷凍技士受験者数を確保するための対策を講じる.
- ・食品冷凍セミナー 対面+WEB:トピックス的テーマを選定して企画する.

学会誌「冷凍」の食品関係の特集号を題材として実施する。

(8) 出版事業委員会

冷凍空調および食品冷凍技術の普及・向上と技術者育成を担う書籍(学会図書)の出版に関し、適宜委員会を開催し、学会プレゼンスの向上を図る。

- ・専門書シリーズの新刊発刊, 増刷計画の検討.
- ・冷凍関係法規集 60次 改訂発刊予定.
- ・販売強化策の検討.
- ・専門図書のPDF化.

(9) 冷凍技術運営委員会

冷凍空調技術士・食品冷凍技術士へ有意義な情報サービスを提供する。

- ・News Letter 発行:2回/年(令和8年9月, 令和9年3月) 冷凍空調技術, 食品冷凍技術に係る技術情報, 技術動向等を掲載.
- ・冷凍技術士研修会:3回/年(令和8年6月, 9月, 令和9年2月) うち1回は他委員会との共催で行う.
- ・年次大会技術士セミナー企画運営:1回/年(令和8年9月) 2026年は冷凍空調技術士70周年・食品冷凍技術士60周年記念催事として年次大会で行う.
- ・他団体との共催行事:1回/年(令和8年11月)

(10) 若手技術者研修会企画委員会

企業・大学の若手(35歳未満)の技術者や研究者に対して, 当学会への参加メリットをアピールする研修会を企画する。研修会においては, 冷凍・空調・食品分野や環境・エネルギー等関連分野の専門家による講演, 関連する試験設備・実験装置・実プラント等の見学, 参加者相互の交流等を行う。

- ・研修会は, 20名程度の参加者に対して, 講演, 見学, 相互交流等による最新情報の提供と人的ネットワークの構築支援を行う。
- ・若手委員を中心に研修会内容企画し7月頃実施予定。実施終了後にアンケートを実施する。

(11) 通信教育委員会

通信教育講座前期6月生添削指導

・冷凍空調技術の普及と教育活動の一環として, 主要都市以外, 特に国内の遠隔地居住で講習会に参加しにくい初級技術者を対象とした通信制の講座(受講期間:5か月間, 月1回の添削)を実施する。

1)前期(6月コース):受講期間(令和8年6~10月), 後期(10月コース):受講期間(令和8年10~令和9年2月)にて実施する。

2)通信教育講座の添削指導, 添削結果の採点基準の各添削者間の水準化と出題内容の修正作業を実施する。

(12) 広報委員会

会員拡大のための広報活動を継続実施していく。

- ・学会活動のPR:学会内/外, HVAC&R展など他団体イベントにおける活動, パンフレット・ポスター制作.
- ・一般向け学会ホームページの管理拡充:出版書籍, セミナー, 年次大会, 調査研究等, 学会活動のPR強化.
- ・会員専用ページ管理拡充:毎月の学会誌PDFの更新と会員への連絡を行う.
- ・メールマガジン配信:各種PR活動・新聞広告掲載 新聞/雑誌広告・図書目録作成.

2. 国際冷凍学会などとの連携・協力による国際交流事業

本事業を実施するために, 次の委員会活動等を行う。「冷凍空調技術ロードマップ2050(英訳版)」を活用し, 学会が考える冷凍空調技術の方向性を発信していく。なお, 本委員会の活動については国際交流環境を考慮し, 状況の変化を見極めて適切な方法で対応する。

(1) 国際委員会

- ・海外関連学会との交流を深め, お互いの連携強化を図る。MoU締結関連学会の相互的訪問によって連携を強化する。SAREK, CAR, TSHRAEの年次大会に参加し, 交流を深める.
- ・SAREK, TSHRAEなどから海外の学生を招待し, 関連学会との交流推進を図る。年次大会に, SAREK, CAR, TSHRAE等を招待し, 国際セッションの発表を通じて国内外の研究者間の交流を深める.

(2) IIR 日本国内分科会

- ・IIR 委員会出席 IIR 執行委員会, 運営委員会への出席:2026 年 6 月, 2027 年 2 月
- ・IIR 運営委員会, 月例運営委員会(オンライン)への出席:毎月
- ・コミッションメンバーの調整:日本から選出可能なコミッションメンバー30名の枠の調整. 不足分の補充等.

(3) ASHRAE 日本国内分科会

- ・ASHRAE との連携活動の推進 日本冷凍空調学会の活動を紹介, 年次大会の案内, また学会が主催する国際会議の紹介・参加の呼びかけ. (随時)
- ・ASHRAE の会議への運営委員派遣:Winter Conference, Annual Conference, AASA (ASHRAE Associate Society Alliance) 会議への参加.
- ・2026 年 6 月の Annual Conference には委員を派遣せず, 2027 年 1 月の Winger Conference への派遣を計画する. なお, 予算の適正使用を考慮し, 旅費削減に努める.

(4) アジア関連学会連携分科会

- ・アジア地区の関連学会 (CAR, SAREK, TSHRAE など)との連携を推進する. 年次大会への関連学会会長および優秀学生の招待:2026 年 9 月
- ・アジア地区の学生活動の推進(TSHRAE, SAREK への派遣). ただし, 予算状況を考慮し, 旅費削減に努める. :2026 年 6 月, 10 月
- ・関連学会が企画する活動への協力 但し, 予算状況を考慮し, 旅費削減に努める.
- ・各国での ACRA 開催に係る協力:2026 年 10 月

3. 調査・資料収集および技術開発・研究開発などの調査研究事業

本事業を実施するために, 次の委員会活動等を行う. 今後の活動では「冷凍空調技術ロードマップ 2050」に纏めた冷凍技術の方向性を情報発信するとともに, この実現に向けた取り組みを各委員会を進めていく.

(1) 規格制定委員会

- 1) 日本工業規格(JIS)の調査, 見直し
 - ・日本規格協会からの依頼に基づき, 調査, 見直しを実施する.
 - ・学会所管のJISの調査, 見直しの検討を実施する.
- 2) 学会規格(JSRAE S)の制定に向けた検討
 - ・関係団体のニーズや最新の技術・製品を反映させた改訂, 新規制定の検討.
 - ・ニーズがある場合は, 分科会を立ち上げ新規規格を制定する:2026 年 4 月~2027 年 3 月
- 3) ISO への活動強化
 - ・ISO 審議団体として専門委員会(TC 86, TC 86 /SC 1, TC 86 /SC 8)に参画, 審議する:2026 年 4 月~2027 年 3 月

(2) ISO TC 86 国内分科会

- 1) 国内分科会開催(審議と情報共有)
 - ・対面と WEB のハイブリッド開催:2026 年 7 月, 2027 年 2 月
- 2) 国際委員会への委員派遣
 - ・TC 86(開催地未定):時期未定
 - ・SC 1/WG 1(開催形式未定):時期, 回数未定
 - ・SC 8/MA(米国・テキサス州オースティン):2026 年 6 月
 - ・SC 8/MA(米国・イリノイ州シカゴ):2027 年 1 月
 - ・SC 8/WG 5(開催形式未定):時期, 回数未定
 - ・SC 8/WG 7(開催形式未定):時期, 回数未定
 - ・SC 8/WG 8(開催形式未定):時期, 回数未定
- 3) 国際会議主催
 - ・日本提案により新規設立される SC 8/新 WG(国内開催予定):時期, 回数未定

(3) 保安委員会

高圧ガス保安に関する情報収集を行い, 情報の共有と発信を行う. また, 新冷媒評価委員会と連携し, 申請のあった新冷媒に関する冷媒定数標準値の算定を行う.

- 1) 高圧ガス保安法, 関連法令および技術規格の動向把握, 教育を行う. また, 高圧ガス関連事故の課題抽出および展開を行う:年 4 回
- 2) 新冷媒に関する冷媒定数標準値の算定を行う:年 2 回

3) 冷凍関係法規集の改訂作業:2026年8月～11月

(4) 新冷媒評価委員会

新たに開発される冷媒ガスの加害性等の評価を行う。委員会開催(2回):2026年4月,10月

- 1) 新規申請冷媒ガスの加害性区分の評価
- 2) FC 容器の評価
- 3) 冷媒定数業界標準値の評価申請窓口 ※評価は保安委員会で実施
- 4) 上記 1)から 3)の評価結果報告および学会ホームページでの公表。
※申請データの機密保持のため,本委員会は対面開催とする。

(5) 温暖化問題等対策委員会

温暖化問題に係わる新たな課題抽出の調査,対策の検討,情報発信を行う。そのために,産官学の関連団体との連携を図る。予算の適正使用を考慮し,委員会はWEB開催を主とし,必要に応じて集合形式,ハイブリッド形式で開催する。

- 1) 委員会を開催する:令和8年6月,9月,11月
- 2) WG 会議を開催する:令和8年5月,7月,9月,11月,令和9年1月
- 3) 本委員会下部組織「容器管理システム調査研究プロジェクト」を継続。進捗把握と方向性確認を行う。

(6) 冷凍空調技術委員会

・冷凍空調技術委員会を年次大会期間中に開催する。傘下の各委員会から活動状況報告を頂く。
:2026年度 年次大会期間中

・活動状況を学術・編集担当理事会に報告(メール集約)する。傘下の各委員会から活動状況報告を頂く。
:令和8年6月,10月,12月,令和9年3月

1) 食品技術委員会

- ・委員会を開催し,以下の計画の実行を進めるとともに,課題の抽出を検討する:委員会1回
- ・年次大会にてOS,WSを企画する。
- ・Cold Chain 高度化推進協議会の活性化 ロードマップの課題実現のため,講演会等を企画し,活動の活性化を図る。

2) 冷媒技術委員会

- ・次世代冷媒に関する情報提供, R23 代替冷媒調査研究 PJ 活動報告等:2026年度年次大会および2026年2月 委員会の開催(2回)
- ・年次大会におけるオーガナイズドセッションの開催 冷媒熱物性に関するOSを年次大会にて企画・運営する:2026年度年次大会

3) 圧縮機技術委員会

冷凍空調分野における圧縮機技術の向上,人材の育成,若手技術者・研究者の交流を深め,相互の活性化を図る。

- ① 圧縮機技術分科会の開催:圧縮機関連技術・開発動向等に関する調査,情報発信,将来技術の調査検討:年3,4回開催
- ② 年次大会での企画・運営:OS,セミナー,ワークショップ等の企画運営,大学・企業関連交流会の実施。
- ③ 国際会議,学会などへの積極的な参画推進(国際人材の育成):国際的な貢献の支援。
- ④ 出版書籍(和文・英文)の紹介・拡販:内容確認,国際,会議などでのPR他。

4) 熱交換器技術委員会

熱交換器に係わる産学連携プロジェクトの立案・運営・管理,最新情報の会員への発信および熱交換器技術の体系化を行う。

- ① 産学連携プロジェクトの管理・運営(熱交換技術に係わる調査研究プロジェクト第10期 [2026～2027年度]を企画,実施) 委員会は,調査研究プロジェクトと連動して開催する。
- ② 年次大会(大阪公立大学)での委員会企画事業 (OS,WS,基調講演)の実施:2026年9月
- ③ 伝熱技術WGによる活動 (伝熱データベースの運用,熱交換器技術の体系化 [ロードマップ対応],専門書「冷媒の沸騰・蒸発」の出版,「冷媒の凝縮」の増刷,学会ホームページで伝熱データベースを公開) 伝熱技術WGは熱交換器技術委員会とは別に開催する。
- ④ 専門書の販売促進 (調査研究PJでのセミナー企画) 調査研究プロジェクトと連携。

5) 次世代冷凍システム技術委員会

地球温暖化防止およびCO₂排出量削減に向け冷凍空調分野の次世代に必要な要素技術とシステム技術に関し,ニーズ側とシーズ側の両面から技術調査を実施し,その結果を年次大会とセミナー等で

報告する。

- ① 冷媒回路組込み制御のセキュリティ サイバーセキュリティに関する技術調査:年 6 回委員会開催 (令和 8 年 5, 7, 9, 11 月, 令和 9 年 1, 3 月)
 - ② 低 GWP 冷媒に関する制御技術調査, 低 GWP 冷媒搭載冷凍システムの制御技術調査.
 - ③ AI 活用と量子もつれに関する技術調査.
- 6) 自然冷媒冷凍空調システム技術委員会
自然冷媒を利用した冷凍空調システムに関する学術的・技術的な情報を集め広く発信する。情報の発信方法としては, 学術講演会でのワークショップの開催などを予定する。最終的には自然冷媒の学術的・技術的な内容を包括した書籍を執筆する。
- ① 自然冷媒システム調査研究プロジェクトを開催し, 国内外の自然冷媒に関する学術的・技術的な情報を収集・整理する。
 - ② 自然冷媒利用技術に関するシンポジウムの招致および企画・準備を行う。
 - ③ 自然冷媒に関する学術的, 技術的内容を包括した書籍の執筆を進める。
- 7) デシカント・吸着・吸収・化学系技術委員会
空調の省エネルギー化および排熱・太陽熱の有効利用のため, デシカント空調, 吸収吸着ヒートポンプおよび化学反応を利用したヒートポンプ技術に関する情報を調査し, 会員および空調技術者などに提供する。
- ① 技術委員会または分科会を開催する。また, 関連技術の網羅的把握と体系化を行う: 通年
 - ② 関連技術についての情報収集・まとめ: 通年
 - ③ セミナー・見学会等を開催する: 年 1~2 回程度
 - ④ 年次大会において OS あるいは WS を企画・運営する: 年次大会時
- 8) 着霜・除霜系技術委員会
着霜・除霜に関連する, 機器の効率化による省エネ, 空調機の快適性や信頼性向上, 着霜・除霜評価方法や設計・操作指針に関する各種情報を収集し提供する。
- ① 着霜・除霜評価方法および設計・操作指針の整備に向けた情報収集: 通年
 - ② 会員および空調技術者・設計者に向けた情報発信: 通年
 - ③ 論文集での着霜・除霜に関する特集号の企画: 通年
 - ④ 令和 8 年度向け年次大会のオーガナイズドセッションとワークショップの企画・開催: 通年
- 9) 調査研究プロジェクト
下記の調査研究プロジェクトを行う。
- ① 環境対応冷媒に向けた先進熱交換技術に関する調査研究
地球環境保全・規制の変化に熱交換器の開発・設計が迅速に対応できるよう, 熱流動現象に関する様々な観点からの知見の整理, 蓄積, 交流を目的とする。プロジェクトで情報を共有化することでものづくりに携わる研究者, 技術者の能力の向上が期待できる。
委員会は, ①招待講演, ②最新技術・研究の話題提供, ③国際会議報告など国際動向, ④先端実験設備の見学, ⑤意見交換会で構成する。また, 委員からの要望に応じてミニセミナーも実施する。
委員会開催: 4 回/年
第 1 回委員会 令和 8 年 6 月頃, 第 2 回委員会 令和 8 年 9 月頃, 第 3 回委員会 令和 8 年 12 月頃, 第 4 回委員会 令和 9 年 3 月頃
 - ② 自然冷媒システム調査研究
自然冷媒システム調査研究プロジェクトを開催し, 国内外の自然冷媒に関する学術的・技術的な情報を収集・整理する。(年間 3~4 回)
 - ③ R23 代替冷媒に関する調査研究
R23 代替冷媒に関する情報提供および施設見学を主な内容とした委員会を 4 回開催する。また, 委員会と並行してプロジェクトの企画・運営を討議する幹事会を開催する。
委員会および幹事会の開催(各 4 回) 令和 8 年 6 月, 9 月, 12 月, 令和 9 年 3 月
 - ④ 冷媒容器管理システム調査研究
本調査研究プロジェクトでは, 冷媒循環を把握する際に参考となる情報を提供することを目的とし, 学術的視点から下記の項目について検討し, 冷媒容器の管理システムを構築する。
 - (1) 冷媒容器管理システムに要求される仕様(システムの普及方策を含む)
 - (2) 多様性や作業性に優れた冷媒容器管理システムの実証研究
 - (3) 冷媒容器管理システムのための最適な保守システムと運用方法
 - (4) 冷媒容器管理システムから得られる情報による冷媒や冷媒容器の環境負担低減への対応

(7) 学会誌編集委員会

学会誌「冷凍」を発行する。「冷凍」誌の企画・記事の魅力向上に向けた検討を行う。委員会はWEB開催を主体とし、年2回程度の対面開催を行う。編集委員会を隔月に6回/年+年次大会で開催する。

開催月：[定例] 2026年6月, 8月, 10月, 12月, 2027年2月, 4月 [年次大会] 2026年9月

- 1) 特集記事の企画および審議
- 2) 連載講座の企画および審議
- 3) 一般投稿の掲載審議
- 4) 新企画の検討

(8)カーボンニュートラル 2050 委員会

2050年カーボンニュートラルの社会実現に向けて冷凍空調分野における課題と解決策を提言として纏める。隔月に委員会を開催し、政策提言を策定する。また、作成した提言書を基に関係団体への提言活動を行う。

4. 資格認定及び表彰による学術評価事業

本事業を実施するために、次の委員会活動などを行う。

(1) 冷凍空調技士考査委員会および試験分科会

冷凍空調技士の資格認定のための試験問題の作成と、採点、資格認定を行う。

- 1) 冷凍空調技士試験問題を作成する。冷凍空調技士試験前に、冷凍・空調技術の取得を目指す者を対象に冷凍空調技士試験受験準備講習会を開催する。講習会後に、冷凍空調技士試験を実施する。
- 2) 試験終了後、分科会および考査委員会を開催し、試験結果の審議と検討を行い、合格者を決定する。
- 3) 冷凍・空調技術の各分野の専門家である分科会委員に試験問題の作成を依頼する。：令和8年8月
- 4) 第1回冷凍空調技士試験分科会を開催し、作成された試験問題について審議する。第2回冷凍空調技士試験分科会で試験問題グラ刷りを再検討する：令和8年9月～12月
- 5) 冷凍空調技士試験受験準備講習会用に「冷凍空調技士講義要綱」を作成する。
- 6) 冷凍空調技士試験受験準備講習会を実施する。冷凍空調技士試験を実施する。試験答案を採点する。：令和9年1月～3月
- 7) 冷凍空調技士試験分科会を開催し、試験答案の採点を確認して、合否(案)を決定する。考査委員会を開催し、分科会から提案された合否(案)を審議し、その結果を理事会に上程する：令和9年4月
- 8) 冷凍空調技士制度による資格認定を行う。
- 9) 技士運営委員会や政策委員会の必要に応じて、試験に関する助言を行う。

(2) 食品冷凍技士考査委員会および試験分科会

食品冷凍技士の資格認定のための試験問題の作成と、採点、資格認定を行う。

- 1) 2026年度の食品冷凍技士試験問題を作成、試験を実施する。
食品冷凍技士として最低限学んでおくべき4つの専門分野と総論について、各専門家に出題を依頼する。試験問題作成にあたっては「食品冷凍技術」テキストを考慮したものとする：令和8年5月
食品冷凍技士試験分科会を召集し、作成した試験問題の難易度、形式等について検討し試験問題を作成する。：令和8年7～9月
食品冷凍講習会用に、「食品冷凍技士試験 学習のポイント」動画を作成する：令和8年11～12月
食品冷凍技士試験の実施、採点を行う：令和9年2～3月
- 2) 考査委員会は実施した試験の結果に基づき考査試験の合格者を決定する。成績優秀者についてはこれを表彰する。
食品冷凍技士試験考査委員会を招集し採点・評価を行い、成績優秀者を決定。次年度作題準備のため、成績分布、問題の良否、量、質について総合的に検討する：令和9年3月
冷凍食品が生活活動に占める重要性に鑑み、学識、技術の必須事項を抽出する：令和9年3月
- 3) 技士制度による資格認定
技士運営委員会や理事会の必要に応じて、試験に関する助言を行う。必要に応じて都度助言を行う。

(3) 論文集編集委員会

- 1) 日本冷凍空調学会論文集の編集を行ない、年間4回発行する。
- 2) 委員会を開催する。(WEB, メール)
- 3) 特集テーマを企画し、論文を募集する。社会や会員の要望に沿ったテーマについて特集企画を行う。(随時)
- 4) 研究レビューを掲載する。委員会で企画・選定した研究分野・研究者に「研究レビュー」執筆を依頼する。また、自主的に投稿された研究レビューについて審査を行う。

(4) 学会賞選考委員会

各賞(学術賞, 技術賞, 研究奨励賞, 優秀講演賞)の担当分科会から報告された選考結果について審議を行う。また, 会長奨励賞の選考を行う。理事会に上程して承認を受け, 授賞審査経過報告および授賞理由を学会誌やホームページに掲載する。

総会において授賞式を開催する。(学術賞・技術賞・研究奨励賞) 2026年5月

年次大会において授賞式を開催する。(優秀講演賞, 会長奨励賞) 2026年9月

1) 学術賞分科会

学術賞, 研究奨励賞の審査を行い, 学術賞, 研究奨励賞の授賞候補者を選考する。

2) 技術賞分科会

日本冷凍空調学会では, 対象事業である冷凍・冷蔵およびヒートポンプシステム, 食品などの冷凍技術において, 科学・技術の向上と普及を図るとともに省エネルギー, 環境適合性の高い製品の開発を促進するため, また, 技術開発者の努力, 熱意を讃えて, 次の世代へ伝えつなげるため, 技術賞を設けている。

本分科会は, 会員からの推薦案件を審査し, 毎年2~5件程度の候補を選出することを業務とする。

委員は産学の専門家で構成し, 審査は技術の新規性, 発展性, 普及性など多方面から行い, 書類審査と実機審査によって受賞候補を選出し, 学会賞選考委員会に提案する。

・学会誌, HP, 代表会員宛メールリングリスト, メールマガジン, 講演会などにて募集する。技術賞募集: ~6月

・当該年度の募集方法, 選考方法を決定する。第1回分科会: 令和8年7月

・応募締め切り後, 応募資格の確認, 内容を審議する。書類審査

・各委員による採点をもとに候補を絞り, 実機審査先を決定する。第2回分科会: 令和8年9月

・事務局が日程調整を行い, 主査と相談の上決定する。実機審査: 令和8年10月

・実機審査担当者を3名以上/件で選任する。実機審査: 令和8年10月

・審査対象に対して委員外から専門家が必要と判断されれば, 委員外に審査委員を依頼する。実機審査: 令和8年10月

・実機審査報告をもとに推薦可否を審議する。第3回分科会: 令和8年11月

・推薦可となれば, 当該の実機審査代表者が推薦書を作成する。第3回分科会: 令和8年11月

・次年度公募要領と選考方法を議論し, 内容を決定する。第3回分科会: 令和8年11月

・審査報告提出→学会賞選考委員会→理事会→決定 受賞者の確定。

3) 優秀講演賞分科会

2026年度年次大会における優秀講演賞の選考: 審査員から提出された評価表に基づき, 2026年度年次大会における優秀講演賞の選考を行う。

第1回分科会: 令和8年11月頃

(5) アジア学術賞選考委員会

アジア学術賞の選考に関する審議をWEB委員会形式で実施する: 2026年2月

年次大会において授賞式を開催する: 2026年9月

(6) 著作権委員会

出版物やホームページに掲載される論文等の著作物の利用許諾やその他著作権に係わる事項の審議, 決定を行う。定期的な委員会は開催せず, 必要に応じてWEB委員会を招集する。

コロナ感染症は収束してきたが, これまでWEBでも問題なく審査できていることから, 今年度も審査はWEBを利用して実施する。※年度内1回は対面にて打合せ予定。

著作物の利用許諾に関する審議 申請に合わせて, メール審議を開催。

5. 学会運営並びに理事会直轄委員会

本事業を実施するために, 次の委員会活動などを行う。

(1) 総務・会計委員会

学会運営を円滑に行うため, 以下の業務を行う。

1) 理事会の議題内容確認, 検討

2) 総会の議題内容確認, 検討

3) 学会の財務基盤強化

① 財務基盤の強化: 収入増加および支出抑制を図る。

② 法人・個人会員制度および会費の見直し。

企業所属の若手個人会員に関する新たな制度の検討。

4) 会長業務 外部の総会・シンポジウム等への参加, 挨拶, プレゼン等の実施: 2026年5月, 11月

5) 継続教育(CPD)のフォロー:

① 日本工学会CPD協議会が主催するCPDプログラム委員会への出席(年4回)

② 上記協議会が主催する公開シンポジウムの聴講(年1, 2回)

6) 他の担当理事会, 委員会に属さない事項のとりまとめ

(2) 学術・編集委員会

学術・編集委員会傘下の委員会を統括し, 各委員会の活動状況を把握するとともに, 活発な活動を推進する。理事会開催に合わせて学術・編集委員会を開催する。

委員会はWEB開催を主とし, 必要な場合は集合形式として招集する: 令和8年6月, 7月, 10月, 12月, 令和9年1月, 2月, 3月

(3) 学会改革委員会

持続可能な学会とするため, 学会運営や組織の課題抽出と改革案を策定する。

2026・2027年度総会での審議に向けて, 定款・細則・規則などの変更案を策定する。

(4) 戦略会議(2026年度廃止)

戦略立案機能を学会改革委員会および政策委員会に移管し, 戦略会議は廃止する。

(5) 政策委員会

3ヵ月に1回以上の委員会をオンライン開催し, 以下の検討を行う。

1) 学会活動の選択と集中, 強化を行うための方策を立案する。

2) 他の学・協会および日本冷凍空調工業会との連携強化を図る。

3) 大学若手研究者への研究支援: 若手研究者の国際会議参加に対する支援(2件程度)

4) その他, 新規課題への対応

(6) 継続教育センター(2026年度廃止)

継続教育(CPD)については, 総務・会計委員会に移管する。